Tokyo Philharmonic Orchestra

Season 2024 subscription series

Booklet

2024シーズン定期演奏会

2024

1

東京フィルハーモニー交響楽団

English pages inside

©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY　Rakuten　マルハン　LOTTE　ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第994回サントリー定期シリーズ
1月23日(火) 19:00開演　サントリーホール

第159回東京オペラシティ定期シリーズ
1月25日(木) 19:00開演　東京オペラシティ コンサートホール

第995回オーチャード定期演奏会
1月28日(日) 15:00開演　Bunkamura オーチャードホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ

ピアノ：マルティン・ガルシア・ガルシア*

コンサートマスター：依田真宣

シベリウス：組曲『カレリア』Op. 11（約15分）

I.　間奏曲
II.　バラード
III.　行進曲風に

グリーグ：ピアノ協奏曲 イ短調 Op. 16*（約30分）

I.　アレグロ・モルト・モデラート
II.　アダージョ
III.　アレグロ・モデラート・モルト・エ・マルカート

― 休 憩（約15分）―

シベリウス：交響曲第2番 ニ長調 Op. 43（約45分）

I.　アレグレット
II.　アンダンテ、マ・ルバート
III.　ヴィヴァーチッシモ
IV.　フィナーレ：アレグロ・モデラート

主催: 公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
助成: 文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）
　　独立行政法人日本芸術文化振興会（1/23）
協力: Bunkamura（1/28）

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。
♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。
♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。
♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。
♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

出演者プロフィール

©上野隆文

指揮

ミハイル・プレトニョフ

Mikhail Pletnev, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 特別客演指揮者

一言では説明できない多才な芸術家。ピアニスト、指揮者、作曲家として魔法のような才能で、世界中の聴衆を魅了している。1957年ロシアのアルハンゲリスク生まれ。1978年、21歳でチャイコフスキー国際コンクールのゴールド・メダルおよび第1位を受賞し、国際的な脚光を浴びる。驚くべき技巧、深い知性に裏づけられた演奏、完璧にコントロールされた美しい音色で、カリスマ的人気を誇る現代最高のピアニストの一人として活躍。

ドレスデン国立歌劇場管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団ほか数々のオーケストラを指揮。ボリショイ・オペラでの『スペードの女王』指揮で大成功を収めているほか、コンサート形式のオペラ指揮も行っている。

1990年ロシア内外の個人、団体より資金を得、ロシア史上初めて国家から独立したオーケストラとしてロシア・ナショナル管弦楽団（RNO）を設立。指揮者として東京フィルハーモニー交響楽団には2003年7月に初めて客演、以来定期的に招かれ、2015年4月より特別客演指揮者に就任。2022年には新たなオーケストラ、ラフマニノフ国際管弦楽団（RIO）を創設。

©Darek Golik (NIFC)

ピアノ

マルティン・ガルシア・ガルシア

Martín García García, piano

マルティン・ガルシア・ガルシア（1996年ヒホン生まれ）は、27歳にして、国際的に最も活躍するピアニストの一人とされている。2023年は世界各地（アメリカ、アジア、ヨーロッパ）で約80回のコンサートを行い、韓国、メキシコ、ブラジルでデビューを果たした。日本、アメリカ、カナダ、ポーランド、イタリア、スペイン、ポルトガル、ベルギー、リトアニア、ルクセンブルクにて素晴らしいリサイタルを開催、またNHK交響楽団、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団、ハンブルク交響楽団、ワルシャワ・フィルハーモニー、リトアニア国立交響楽団、ブラジリア管弦楽団などの名だたるオーケストラと共演している。

2022年にはアメリカ、アジア、ヨーロッパで70回以上の公演を行い、ニューヨークのカーネギーホールでのデビューや、日本でのツアーは14公演で25,000人を動員するなど、大成功を果たした。

ガルシア・ガルシアは、2021年クリーブランド国際ピアノコンクール第1位、2021年ショパン国際ピアノコンクール第3位など、世界的に高い評価を得ている。2022年にはデビューアルバム「ショパンとヒズ・マスター」をリリース。

彼はレイナ・ソフィア音楽学校を卒業、同校ではガリーナ・エギザロヴァ教授に10年間師事、ソフィア王妃から「最優秀学生賞」を受ける。また、ニューヨークのマネス音楽院にて著名なピアニスト、ジェローム・ローズに3年間師事、修士号を取得している。

楽曲紹介

解説＝神部 智

今回の定期演奏会は、ポピュラーなグリーグのピアノ協奏曲とシベリウスの交響曲第2番がメインで、それに組曲『カレリア』が花を添えるという、いわば真正面勝負のプログラムだ。スカンジナヴィアの作曲家に対して、時に「北欧のリリシズム」などと評されることもあるが、グリーグとシベリウスの音楽はそれだけにとどまらない。北国特有の荒々しさ、強靭さも内奥に秘めているのである。

それら名曲中の名曲を、ロシアの名匠で東京フィル特別客演指揮者のミハイル・プレトニョフがどのように挑むのか。ノルウェー、フィンランド、ロシアはそれぞれ文化や歴史が異なるが、各国に共通するのは北国の厳しさ、そして自然の厳しさ故に灯る人々の温かさだろう。本日はプレトニョフの指揮を通して、グリーグとシベリウスのエッセンスをじっくり味わいたい。

シベリウス
組曲『カレリア』Op. 11

フィンランドの作曲家ジャン・シベリウス（1865-1957）は1893年、ヘルシンキ大学のヴィープリ学生協会の依頼により、舞台劇『カレリア』の付随音楽を作曲する。

フィンランド南東部に位置するカレリア地方の中心都市ヴィープリは、同国の民族叙事詩『カレワラ』発祥地の一部だが、隣国ロシアとの政争に巻き込まれた悲劇の町である。日々厳しさを増していくロシアの政治的弾圧（フィンランドは当時、ロシア帝国に支配されていた）を背景に、若者たちはカレリア地方との精神的つながりを深める目的で愛国的な舞台劇を企画。13世紀から19世紀までのカレリア地方で起こったさまざまな歴史的出来事を活人画で表現するという舞台劇の趣旨に賛同したシベリウスは、序曲と8つの情景の付随音楽を提供した。

その付随音楽から第3、第4、第5の情景をコンサート用に改編して出版したのが、組曲『カレリア』作品11である。**第1曲「間奏曲」**は1330年頃の情景で、さざ波のような弦楽の伴奏を背景に、金管がリズミカルな主題を奏でる。少しずつ力が増幅していき、やがて大きな頂点を迎えると、今度は余韻を残しなが

らデクレッシェンドしていく。**第2曲「バラード」**は1440年頃の情景。ヴィープリ城の中で吟遊詩人が哀愁を帯びた旋律を歌う場面である。弦楽がメランコリックな旋律をしみじみと奏するが、最後はイングリッシュ・ホルンによる印象的なフレーズで締めくくられる。**第3曲「行進曲風に」**は1580年頃の情景。弦楽による付点リズムの主題、金管のファンファーレを伴う主題の2つが交互に登場しながら、最後までエネルギッシュに「行進」していく。

[作曲年代] 1893年
[初演] 1894年4月24日、ヘルシンキ、ロベルト・カヤヌスの指揮による
[楽器編成] ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、打楽器（タンブリン、大太鼓、トライアングル、シンバル）弦楽5部

グリーグ
ピアノ協奏曲 イ短調 Op. 16

ベルゲン生まれのエドヴァルド・グリーグ（1843-1907）は、ノルウェーを代表するロマン派の作曲家である。ライプツィヒ音楽院に留学し、ドイツの作曲技法を習得したグリーグは、とりわけロベルト・シューマンの音楽に深く傾倒したという。

清澄なロマンティシズムに溢れるグリーグ唯一のピアノ協奏曲は、作風的な面でシューマンの協奏曲としばしば比較される。それは単なる偶然ではないだろう。事実、グリーグはライプツィヒ音楽院に留学時、シューマンの妻クララが演奏する彼のピアノ協奏曲を聴いて、「忘れられない印象」と述懐している。

初演時より大好評を博したグリーグのピアノ協奏曲は、出版に際して何度も修正の手が加えられた。これまで計5種類の楽譜が出版されているが、今日広く用いられているのは1917年に出版された改訂第4版である。それはグリーグが亡くなる1907年、作曲者自身が生前最後の改訂を施した版と考えられている。

この協奏曲には、ピアノの名手でもあったグリーグ独自の書法が随所に見出される。ソナタ形式の**第1楽章**は、まるでフィヨルドを激しく流れ落ちる滝のように、一気に下降するピアノ・ソロで幕を開ける。続いて登場する舞曲風の主要主題と、リリシズムに満ちた副次主題の2つを軸にしながら展開していく。コー

ダの直前に配されたカデンツァでは、グリーグの巧みなピアノ書法を垣間見ることができる。緩やかな**第2楽章**は、抒情的な表現世界の極みといえる音楽。弦楽の美しくも静穏な旋律で始まり、やがてピアノが加わると徐々に高揚していく。そして遂にはピアノが冒頭の旋律を高らかと歌い上げる。**第3楽章**は第1楽章と同様、ノルウェーの民族舞曲を思わせる主要主題と歌心に満ちた副次主題が交互に登場。最後は副次主題の強奏で巨大なクライマックスを迎え、ドラマティックに終結する。

[作曲年代] 1868年
[初演] 1869年4月3日、コペンハーゲンにて、ホルガー・シモン・パウリの指揮、エドムン・ネウペットの独奏による
[楽器編成] フルート2（2番はピッコロ持ち替え）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽5部、独奏ピアノ

シベリウス
交響曲第2番 ニ長調 Op. 43

シベリウスが交響曲第2番の創作に集中したのは、1901年夏から翌02年初頭にかけてであった。作曲に着手する直前、シベリウスは創作の刺激を求めて家族とイタリアに旅行しており、そのため南欧の明るく牧歌的な雰囲気がその曲調に反映しているといわれる。だがこの交響曲は、決して穏やかで温かい気分（例えば、第1楽章の冒頭）に終始するわけではない。激しい苦悩と葛藤（第2楽章）、嵐のようなうねりと静穏（第3楽章）、そして魂の高揚や英雄的なファンファーレ（第4楽章）など、作曲者の優れた筆致によって、あらゆる表現の限りが尽くされるのである。

とりわけ注目されるのは、「明」と「暗」の世界の相克を通して輝かしい勝利へと導かれる交響曲の終結部であろう。この作品を初めて耳にした当時のフィンランドの聴衆は、「暗」の要素をロシアの政治的弾圧に喩え、「明」が「暗」を乗り越えて力強く終結するフィナーレの内に、自分たちの「未来への希望」を重ね合わせようとした。交響曲において抽象的な表現を目指していたシベリウスがそのように見え透いた標題的解釈を喜ぶことはなかったが、交響曲第2番の表現世界は「作曲者の意図」など遥かに超え、今なお聴き手の心に訴えてやまな

いさまざまなメッセージを秘めている。それが、この交響曲の真に傑作たる所以であろう。

第1楽章は展開部後半に巨大なピークを配したソナタ形式。曲冒頭の伴奏形に現れる3度上行（嬰ヘ-ト-イ）の動きは、交響曲全体を統一する重要な要素として働く。**第2楽章**は激しい起伏を伴うドラマティックな緩徐楽章。**第3楽章**は、抜群の推進力を持つ弦楽器の旋律と、オーボエ・ソロによる穏やかな旋律が交互に現れるスケルツォ。最後は一気に高潮し、アタッカで勇壮なフィナーレへと流れ込む。**第4楽章**は「明」と「暗」を象徴する2つの主題の性格的対比が顕著なソナタ形式。曲の終盤では、執拗に繰り返される短調の副次主題が大きなうねりを形成していくが、その頂点で主調のニ長調に転ずると、「希望の賛歌」を思わせる壮大で輝かしいクライマックスを迎える。

[作曲年代] 1901～1902年
[初演] 1902年3月8日、ヘルシンキにて作曲者自身の指揮による
[楽器編成] フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、弦楽5部

かんべ·さとる／ヘルシンキ大学大学院にて博士号取得。博士（音楽学）。国立音楽大学教授·副学長。大学の公開講座や市民講座の講師、NHK番組の出演·監修など多方面で活躍している。北欧音楽やシベリウスに関する論文、エッセイ、プログラム·ノート、ミニチュア·スコアの解説を多数執筆。著書に『シベリウスの交響詩とその時代』、『作曲家·人と作品　シベリウス』（以上、音楽之友社）など。第30回ミュージック·ペンクラブ音楽賞受賞。

The 994th Suntory Subscription Concert
Tue. Jan. 23, 2024, 19:00 at Suntory Hall

The 159th Tokyo Opera City Subscription Concert
Thu. Jan. 25, 2024, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 995th Orchard Hall Subscription Concert
Sun. Jan. 28, 2024, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

Mikhail Pletnev, conductor
Martín García García, piano*
Masanobu Yoda, concertmaster

Sibelius: *Karelia* Suite, Op. 11 (ca. 15 min)

23 Jan

I. Intermezzo
II. Ballade
III. Alla marcia

Grieg: Piano Concerto in A minor, Op. 16* (ca. 30 min)

25 Jan

I. Allegro molto moderato
II. Adagio
III. Allegro moderato molto e marcato

— intermission (ca. 15 min) —

Sibelius: Symphony No. 2 in D major, Op. 43 (ca. 45 min)

28 Jan

I: Allegretto
II: Andante, ma rubato
III: Vivacissimo
IV: Finale: Allegro moderato

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra
Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan | Japan Arts Council (Jan. 23)
In Association with Bunkamura (Jan. 28)

♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
♪ Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

Artists Profile

©Takafumi Ueno

Mikhail Pletnev,
conductor

Special Guest Conductor of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

23 Jan
25 Jan
28 Jan

Mikhail Pletnev is an artist who cannot be classified in one word. Known as a genius and one of the greatest pianists of our time and also as conductor and composer. Born in Archangel, Russia in 1957. Awarded the 1st prize and Gold Medal at renowned Tchaikovsky Competition in 1978 when he was 21 years old.

The resulting friendship with Mikhail Gorbachev in time gave Pletnev the opportunity to found Russian National Orchestra (RNO) in 1990.

Pletnev is also often invited to conduct noted orchestras such as Staatskapelle Dresden, Royal Concertgebouw Orchestra, and others. Starting from July 2003, he has been invited to conduct the Tokyo Philharmonic Orchestra and was appointed as Special Guest Conductor from 2015. As a composer, he has been composing numerous works among which there is a cello sonata written for Steven Issarlis. His CDs have been released from Deutsche Grammophon and Pentatone Classics.

In 2022, he founded the Rachmaninov International Orchestra (RIO).

©Darek Golik (NIFC)

Martín García García,
piano

23 Jan
25 Jan
28 Jan

Martín García García (born in Gijón, 1996) is considered, at 27 years old, one of the pianists with the greatest international projection. In 2023, he has performed around 80 concerts worldwide (in America, Asia, and Europe), a year that marked his debut in Korea, Mexico, and Brazil. He has also visited Japan, the United States, Canada, Poland, Italy, Spain, Portugal, Belgium, Lithuania, and Luxembourg to give remarkable recitals and perform alongside prestigious orchestras such as the NHK Symphony Orchestra, Seoul Philharmonic Orchestra, Hamburg Symphoniker, Warsaw Philharmonic Orchestra, Lithuanian National Symphony Orchestra, and the Brasilia Orchestra. It's worth noting that the Spanish artist also gave over 70 performances across America, Asia, and Europe in 2022, achieving significant milestones like his debut at Carnegie Hall in New York and a successful tour in Japan with 25,000 attendees across 14 performances. García García has received major global recognitions, including first prize at the 2021 Cleveland International Piano Competition and third place at the 2021 International Chopin Piano Competition. He released his debut album "Chopin and His Master" in 2022, a production done by the artist himself.

He graduated from the Reina Sofía School of Music, where he studied for a decade under Professor Galina Eguiazarova, and was honored by Her Majesty Queen Sofía with the recognition of being the Most Outstanding Student of her chair. He also holds a Master's in Piano from the Mannes School of Music in New York, where he studied with the renowned pianist Jerome Rose for 3 years.

Program Notes

Text by Robert Markow

Sibelius: *Karelia* Suite, Op. 11

In 1893, at the age of 27, Sibelius was already something of a national hero for his magnificent symphonic poem-cantata *Kullervo*, based on passages from the Finnish national epic, the *Kalevala*. He was therefore the natural choice by the Viipuri Student Corporation of the University of Helsingfors (later renamed Helsinki) to write some music for a pageant depicting scenes from the history of Karelia. (Karelia is the region just northwest of St. Petersburg. Currently part of Russia, it has been owned by various lands over the centuries. Vyborg is its principal city.) Without incorporating any native folk songs, Sibelius successfully captured the special flavor of this individualistic land in an overture and eight short pieces. Subsequently the overture was published as Op. 10, and three of the remaining pieces as the *Karelia* Suite, Op. 11.

The "Intermezzo" is meant to depict Karelians passing in procession to offer tribute to a Lithuanian prince, but it is not difficult to imagine also armored knights riding through dark forests on proud chargers, much as Bruckner had done in his Fourth Symphony (*Romantic*) in the same key (E-flat major). The "Ballade" portrays a deposed ruler, Karl Knutsson, quietly listening to a minstrel at Viipuri (Vyborg) Castle, and the "Alla marcia" is the lively response to a summons to battle.

JEAN SIBELIUS: Born in Hämeenlinna (formerly Tavastehus), Finland, December 8, 1865; died in Järvenpää (near Helsinki), September 20, 1957
Work composed: 1893 **World premiere:** April 24, 1894 in Helsinki, conducted by Robert Kajanus
Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, bass drum, triangle, cymbals), strings

23 Jan
25 Jan
28 Jan

Grieg:
Piano Concerto in A minor, Op. 16

It is hardly surprising that, aside from a youthful symphony the composer ordered never to be played, Grieg's only large-scale orchestral work is a piano concerto, for, like Chopin, the piano was the instrument central to his compositional output. Grieg's first works were for the piano, written as a teenager, and he wrote all his life for the instrument, including ten volumes of *Lyric Pieces*. The melodic inspiration, wonderful freshness and harmonic piquancy that distinguish these pieces are found as well in the Piano Concerto.

Grieg was the first composer from Norway to achieve international recognition in a big way, and it was his Piano Concerto, written at the age of 25, that brought him his first major success. It was written mostly during the summer months of 1868 while Grieg was spending an idyllic vacation in the town of Søllerød in the Danish countryside. The first performance was given by Edmund Neupert, Norway's leading pianist of the day, on April 3, 1869 at Copenhagen's Royal Theater. The concerto was initially dedicated to the composer Rikard Nordraak, but Neupert received the dedication of the second edition of the score.

Musical connoisseurs have long made an exercise of comparing two of the world's most popular piano concertos written in the mid-nineteenth century, Schumann's (1841/1845) and Grieg's. Both concertos open with an orchestral "bang" followed by a cascade of octaves from the soloist, and have for their first themes a plaintive melody played by the woodwind choir. In fact, Grieg modeled his entire first movement on Schumann's.

But Grieg was no mere imitator. The music is deeply imbued with a quality all his own. Building on the stylistic inheritance of the German romantic tradition, Grieg integrates elements of Norwegian folk music as well as individual touches of his own musical personality (fondness for certain intervals, melodic turns of phrase, etc.). The Norwegian elements are most pronounced in the final movement. Here, the principal theme,

announced by the piano, conforms to the rhythmic pattern of the *halling* (a national dance), combined with the sound effects suggestive of the Hardanger fiddle (bare fifths, drones, slides to a dissonant pitch). Towards the end of the movement, this *halling* pattern becomes a *springdans* when the theme is played in triple rather than duple meter.

EDVARD HAGERUP GRIEG: Born in Bergen, June 15, 1843; died in Bergen, September 4, 1907
Work composed: 1868 **World premiere:** April 3, 1869 in Copenhagen, conducted by Holger Simon Paulli with Edmund Neupert as the soloist
Instrumentation: 2 flutes (2nd doubling on piccolo), 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, timpani, strings, solo piano

Sibelius: Symphony No. 2 in D major, Op. 43

So many people have read so many things into Sibelius' Second Symphony that its purely musical argument sometimes gets lost. To Finns searching for nationalistic connotations in anything their compatriots wrote, the Second Symphony, with its broad scale and heroic gestures, provided a perfect vehicle. The composer's own avowal that "I am a poet of Nature. I love the mysterious sounds of the fields and forests …" has been used to detect nature imagery in the Symphony, but composition of the work preceded this statement. Folk material? Some of Sibelius' themes may sound like popular tunes, but the composer himself asserted that "I have never used a theme that was not of my own invention." And what about geographical implications − those darkly brooding Finnish forests, silent lakes and wintery landscapes? The Second Symphony was composed mostly in warm, sunny Italy during the spring of 1901. The first performance took place a year later in Helsinki, with Sibelius conducting.

The success and popularity of this work – the most frequently performed of Sibelius' seven symphonies and the longest as well by a good margin – have not depended on the imaginative minds that devised the foregoing theories. As a structure in sound, the symphony stands on its own as one of the most magnificent creations in the orchestral repertory. In the tensions arising from opposing elements of the score, the contrasts of mood, the continuous control of pace, the fusion of its component parts into an organic whole, and the vast sweep of its trajectory from humble beginnings to mighty apotheosis, the Second Symphony embraces a true symphonic world of towering strength.

The first movement opens with softly throbbing chords in the lower strings. This and several motifs heard in rapid succession make up the first theme group. Sibelius is concerned not so much with long, broadly-arched themes as he is with arranging small fragments into a coherent whole as the movement unfolds. A second, contrasting group begins with an oboe solo consisting of a sustained note followed by a flourish at the end. The commentaries of numerous distinguished musical analysts differ widely in their interpretation of this movement's form; perhaps it is best simply to let Sibelius' own comment serve to work on a subliminal level. He once described the symphonic process as follows: "It is as if the Almighty had thrown down pieces of a mosaic from Heaven's floor and asked me to put them together." The listener might also consider how often the three-note rising figure of the very opening motif is integrated, in both the ascending and descending forms, into most of the other motifs as well.

The second movement is drawn in somber colors. A chant-like theme given initially to two bassoons in octaves over a pizzicato bass accompaniment is answered by a complementary theme for oboes and clarinets. Among the many themes and fragments Sibelius uses in this movement is a highly characteristic effect consisting of a loud chord (often in the brass) which diminishes in strength and ends with a mighty crescendo to even greater volume than before.

The Scherzo might best be described as a whirling blizzard of

sound. The central Trio section provides the greatest possible contrast in its idyllic, pastoral melody sung by the oboe. The furious Scherzo is then repeated in modified form, followed by a return of the Trio, now shortened, which acts as an extended bridge passage to the Finale. As in Beethoven's Fifth, the third and fourth movements are directly connected, with the Finale's majestic chorale-like first theme arising from transitional material connecting the movements. Sibelius covers much emotional territory in this movement. In contrast to the optimistic, affirmative opening, a distinct mood of gloomy turbulence is created at several points by darkly swirling ostinatos in the lower strings. Resolution, triumph and glory inform the massive final pages of the symphony as the brass intone the magnificent chorale theme for the last time.

Work composed: 1901-1902 **World premiere:** March 8, 1902 in Helsinki, conducted by the composer
Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

Season 2024 Subscription Concerts Lineup

We are pleased to inform dear audience the Tokyo Phil's season 2024 subscription lineup! Please join us the ultimate concert experience by subscribing to our concert series. You can select from 3 subscription concerts at Tokyo's top venues, Bunkamura Orchard Hall, Tokyo Opera City Concert Hall, and Suntory Hall.

For more details, please access our website! https://www.tpo.or.jp/en/

February

conductor: Myung-Whun Chung, honorary music director

Thu, Feb 22, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Sun, Feb 25, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Feb 27, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Beethoven:
Symphony No. 6 *Pastoral*
Stravinsky:
Ballet *The Rite of Spring*

Single tickets available

March

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor **soprano: Vittoriana De Amicis**, **countertenor: Tadashi Miroku baritone: Michele Patti**
chorus: New National Theatre Chorus children chorus: Setagaya Junior Chorus

Sun, Mar 10, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Wed, Mar 13, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri, Mar 15, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Respighi:
Ancient Airs and Dances Suite No. 2
Orff:
Carmina Burana

Single tickets available

June

conductor: Myung-Whun Chung, honorary music director,
piano: Keigo Mukawa Ondes Martonot: Takashi Harada

The 1000th Subscription Concert
Sun, Jun 23, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Mon, Jun 24, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Wed, Jun 26, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Messiaen:
La Turangalîla-symphonie

Single tickets available

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522
(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)
Tokyo Phil WEB Ticket Service https://www.tpo.or.jp/en/

July

conductor: Dan Ettinger, conductor laureate **piano: Tomoki Sakata**

Wed, Jul 24, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Jul 28, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Mon, Jul 29, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Mozart:
Piano concerto No. 20
Bruckner:
Symphony No. 4 *Romantic*

Single tickets will be available from April on

September

conductor : Myung-Whun Chung, honorary music director

Macbeth: Sebastian Catana Lady Macbeth: Vittoria Yeo Banquo: Alex Esposito

Macduff: Stefano Secco Malcolm: Keiro Ohara

Lady-in-waiting to Lady Macbeth: Yuka Tajima A Doctor: Takayuki Ito

Servant of Macbeth/Murderer/Herald: Yuichiro Ichikawa

Chorus: New National Theatre Chorus

Sun, Sep 15, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Sep 17, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Thu, Sep 19, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Verdi: opera *Macbeth*
Concert-Style Opera in four acts with Japanese surtitles

Single tickets will be available from April on

October

conductor: Daichi Deguchi violin: Moné Hattori

Thu, Oct 17, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Fri, Oct 18, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Oct 20, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Khachatuiran:
Excerpts from *The Valencian widow* suite
Fazil Say:
Violin concerto *1001 Nights in the Harem*
Kodály: Dances of Galánta
Kodály:
Variations on a Hungarian Folksong *The Peacock*

Single tickets will be available from April on

November

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor

Wed, Nov 13, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Nov 17, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Nov 19, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Mahler:
Symphony No. 7 *Nachtmusik*

Single tickets will be available from April on

東京フィルだより ― 2024年シーズン今後の定期演奏会

2月定期演奏会

第996回サントリー定期シリーズ
2月22日(木)19:00 サントリーホール

第997回オーチャード定期演奏会
2月25日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第160回東京オペラシティ定期シリーズ
2月27日(火)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

指揮：チョン・ミョンフン
(東京フィル 名誉音楽監督)

ベートーヴェン／交響曲第6番『田園』
ストラヴィンスキー／バレエ音楽『春の祭典』

チョン・ミョンフン ©上野隆文

1回券発売中

3月定期演奏会

第998回オーチャード定期演奏会
3月10日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第161回東京オペラシティ定期シリーズ
3月13日(水)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第999回オーチャード定期演奏会
3月15日(金)19:00 サントリーホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ
(東京フィル 首席指揮者)

ソプラノ：ヴィットリアーナ・デ・アミーチス*
カウンターテナー：彌勒忠史*
バリトン：ミケーレ・パッティ*
合唱：新国立劇場合唱団(合唱指揮：冨平恭平)*
児童合唱：世田谷ジュニア合唱団(児童合唱指揮：掛江みどり)*

レスピーギ／リュートのための古風な舞曲とアリア 第2組曲
オルフ／世俗カンタータ『カルミナ・ブラーナ』*

アンドレア・バッティストーニ ©上野隆文

ヴィットリアーナ・デ・アミーチス

彌勒忠史

©Giada Sponzilli

ミケーレ・パッティ

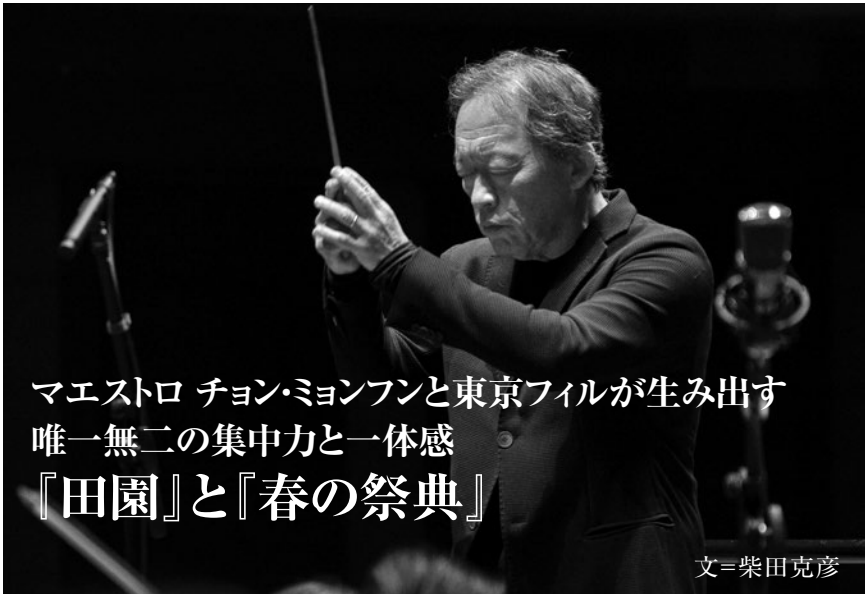
1回券発売中

【料金】1回券　SS¥15,000　S¥10,000　A¥8,500　B¥7,000　C¥5,500
※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522(10時～18時／発売日を除く土日祝休)
https://www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)

2月定期演奏会の聴きどころ



マエストロ チョン・ミョンフンと東京フィルが生み出す唯一無二の集中力と一体感
『田園』と『春の祭典』

文=柴田克彦

進化する、マエストロ チョン・ミョンフンと東京フィルとの絆

マエストロ チョン・ミョンフンと、彼が2001年以来ポストを持ち、現在は名誉音楽監督の任にある東京フィルハーモニー交響楽団との絆の強さについては、改めて言うまでもない。ただし、その関係の在り方は少しずつ変化しているのではないだろうか。

マエストロは、2020年12月にインタビューした際、こう語っていた。

「東京フィルとは20年間、常にポジティブな関係を続けてきました。これはある意味奇跡的なことです。人との関係において最良の到達点は“信頼”だと思います。ただし、そこに至るまでには時間と段階を要します。まずはプロフェッショナルなレベル、そして次に“良い”プロフェッショナルなレベル、最後にパーソナルな関係です。私は今、東京フィルのメンバー一人ひとりに対して心から幸福を願い、愛情を感じています」

このような関係の変化に沿って、演奏自体も就任当初の“熱演”から「“良い”プロフェッショナルなレベル」すなわち“快演”へと移り、そして今や「信頼とパーソナルな関係」を反映した“熟演”と呼ぶべき領域に達しているように思われる。

2021年7月「ブラームス　交響曲の全て」でコロナ禍を経て1年半ぶりに共演を果たしたマエストロと東京フィル　©K. Miura

それは、2021年7月＆9月の「ブラームス交響曲全曲演奏」、2022年5月の「オール・フレンチ・プログラム」、10月のヴェルディ『ファルスタッフ』（オペラ演奏会形式）、2023年7月のヴェルディ『オテロ』（同）といった公演で、とりわけ顕著に示されていた。あらゆる音の動きに新たな命が吹き込まれた、雄弁にして生気に富んだ、それでいてナチュラルな呼吸で運ばれる音楽……熱演や快演というだけでなく、行間や味わいをも感じさせるその演奏は、関係を真に深めた当コンビ以外には成し得ない“熟演”だった。

もう1つ、共演が困難を極めたコロナ禍を経た彼らのコラボには、“共演できることの喜び”が溢れている。前記各公演のみならず全ての演奏がそうだ。これが生の共同作業であるコンサートに活力を与えるのは自明の理。ひいては両者が創造する音楽に特別な感興――それは互いの心からの信頼だけが成し得る集中力や一体感に溢れたものだ――をもたらしてもいる。

コロナ禍以降、チョン・ミョンフンは、東京フィルの定期演奏会に一時期よりも多く登場するようになり、2024シーズンには全8プログラムの定期演奏会の内3プログラムを指揮する。これ自体嬉しいことであり、唯一無二の“熟演”を味わえる各公演は、当然どれも聴き逃せない。

2024年2月、春の胎動を想起させる『田園』と『春の祭典』

さて2024年、その皮切りとなるのが2月の定期演奏会。ベートーヴェンの交響曲第6番『田園』とストラヴィンスキーのバレエ音楽『春の祭典』というプログラムだ。

ともに春の胎動を想起させる、2月の公演に相応しい演目であり、ロマン派の先駆けとなった交響曲と20世紀音楽の起爆剤となったバレエ曲が並んだ、古典と現代を繋ぐ架け橋のような意味を持つプログラムである。しかも両者の組み合わせを演奏会で聴く機会はあまりないので、まずはその生体験自体と続けて聴いた際の感触が興味深い。

2022年10月定期、ヴェルディ／歌劇『ファルスタッフ』（オペラ演奏会形式）より　©上野隆文

また、チョン・ミョンフンと東京フィルのコンビは、過去に共演して好評を得た演目の再演を、近年の柱の1つとしている。『田園』は、聴く者を熱狂させた「ベートーヴェン交響曲全曲演奏会」の一環の2004年1月と、2016年9月の定期演奏会等、『春の祭典』は2004年4月の定期演奏会で披露された演目だ。つまり前者は8年ぶり、後者は20年ぶりの演奏となる。まさしく“熱演”が続いた2004年と“快演”時代ともいうべき2016年に取り上げられた『田園』が、“熟演”時代に入った今、しかも『春の祭典』との組み合わせでいかに表現されるのか？ 実に楽しみだ。さらに『春の祭典』に至っては“熱演”時代以来、超久々の演奏。大きく深化した今の当コンビの表現に熱視線が注がれるのは論を待たない。

加えてこの間、東京フィルの機能性や重量感も大幅にアップしている。そこにチョン・ミョンフンの、変わらず緻密にして深みと円熟味を増したタクトが加わるのが今回の公演だ。のどかさ、幸福感、迫力など多様な表遠力が求められ、管楽器のソロの腕前も重要な『田園』と、複雑なフレーズやリズムへの対応力と原始的なパワーが要求される『春の祭典』ならば、現在の東京フィルの高い技量や幅広いダイナミズムが強固なベースとなって、以前とは異なるパフォーマンスを実現させるに違いないし、むろんそこも今回の注目点となる。

さらに重要な点がある。それは、マエストロもオーケストラもオペラ演奏の経験が豊富で、ドラマ性・物語性の表現に長けていること。一連の演奏会形式のオペラはもとより、最近は、ドビュッシーの交響詩やラヴェルのバレエ音楽、さらにはシューベルトやブルックナー、ブラームスの交響曲でも、そうしたドラマ性を湛えた起伏の豊かな音楽が展開されている。また『春の祭典』には、チョン・ミョンフンがフランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団を指揮した2007年のCD録音（ドイツ・グラモフォン）がある。そこには、激烈なダイナミズムだけでなく、この曲には珍しいほどしなやかな“歌”が内包されている。

暖かくも平和な“春”を待ち望む思い

『田園』は、いわゆる“標題交響曲”の元祖的存在であり、田舎にいる人の心持ちや自然の情景、嵐が去った後の神への感謝の思いなどが表現された作品、そしてもちろん『春の祭典』は、異教徒の儀式を描いた迫真のバレエ音楽だ。それゆえ、ドラマ性・物語性や歌の表出にかけては日本随一ともいえる当コンビの特質が、他では聴けない音楽の創出を成就させるのではないか? この点への期待も大きい。

暖かくも平和な“春”を待ち望む思いは、今の世相においてよりいっそう強くなっていると言っていい。このプログラムにはむろんそうした意義もある。

“熟演”は、同時に“快演”であり、さらには“凄演”でもある。今回はまさに“熟演”にして“凄演”を予感させるプログラムだ。ここは、そうした稀代の“名演”を堪能しつつ、進化・深化を続けるコンビの“熟演”の先にも思いを馳せたい。

マエストロと東京フィルとの演奏は進化・深化を続けている（2021年9月定期演奏会『ブラームス　交響曲の全て』より）　©K. Miura

しばた・かつひこ（音楽ライター）／音楽マネージメント勤務を経て、フリーランスの音楽ライター、評論家、編集者となる。雑誌、公演プログラム、Web、宣伝媒体、CDブックレット等への寄稿、プログラム等の編集業務のほか、一般向けの講演や講座も行うなど、幅広く活動中。著書に「山本直純と小澤征爾」（朝日新書）、「吹奏楽編曲されているクラシック名曲集」（音楽之友社）。

News & Information

9月定期演奏会 ヴェルディ歌劇『マクベス』(オペラ演奏会形式)出演者決定!

2024シーズン9月定期演奏会のヴェルディ／歌劇『マクベス』(指揮:チョン・ミョンフン)の出演者は、下記のとおり決定しました。シェイクスピアとヴェルディが生み出した傑作オペラの世界を、マエストロ チョン・ミョンフンと充実のソリスト陣とともにお届けします。どうぞお楽しみに!

©Sergio Ferri

©Victor Santiago

©FUKAYA auraY2

©上野隆文

指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)
マクベス(バリトン): セバスティアン・カターナ
マクベス夫人(ソプラノ): ヴィットリア・イェオ
バンクォー(バス): アレックス・エスポージト
マクダフ(テノール): ステファノ・セッコ
マルコム(テノール): 小原啓楼
侍女(メゾ・ソプラノ): 但馬由香
医者(バス): 伊藤貴之
マクベスの従者、刺客、伝令(バス):
市川宥一郎
合唱: 新国立劇場合唱団(合唱指揮: 冨平恭平)

ヴェルディ／
歌劇『マクベス』

【オペラ演奏会形式】
全4幕・日本語字幕付き原語(イタリア語)
公演時間:約2時間45分(休憩含む)

公演日程・会場等の詳細はp27をご参照ください。

12月よりファゴット・セクション(首席)に河野 星(こうの あかり)が入団しました。

「みなさま、はじめまして。ファゴットの河野 星です。

高校1年の時に『高校生のためのオペラ鑑賞教室』で初めてオペラを鑑賞した際のオーケストラが東京フィルでした。お友達とオーケストラピットを観察し、そこから溢れる音楽に感動したのを覚えています。それから6年後、こうして東京フィルの一員としてオペラはもちろん、バレエやシンフォニーを演奏できることをとても嬉しく思います。

これからどうぞよろしくお願い致します」。

2024シーズン　今後の定期演奏会

2月	**指揮: チョン・ミョンフン** （名誉音楽監督） 第996回 2月22日（木） 19:00 サントリーホール 第997回 2月25日（日） 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第160回 2月27日（火） 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	ベートーヴェン／交響曲第6番『田園』 ストラヴィンスキー／バレエ音楽『春の祭典』 1回券発売中
3月	**指揮: アンドレア・バッティストーニ** （首席指揮者） **ソプラノ: ヴィットリアーナ・デ・アミーチス*** **カウンターテナー: 彌勒忠史*** **バリトン: ミケーレ・パッティ*** **合唱: 新国立劇場合唱団（合唱指揮: 冨平恭平）*** **児童合唱: 世田谷ジュニア合唱団** **（児童合唱指揮: 掛江みどり）*** 第998回 3月10日（日） 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第161回 3月13日（水） 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第999回 3月15日（金） 19:00 サントリーホール	レスピーギ／ リュートのための古風な舞曲とアリア 第2組曲 オルフ／ 世俗カンタータ『カルミナ・ブラーナ』* 1回券発売中
6月	**指揮: チョン・ミョンフン**（名誉音楽監督） **ピアノ: 務川慧悟** **オンド・マルトノ: 原田 節** 第1000回 6月23日（日） 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第1001回 6月24日（月） 19:00 サントリーホール 第162回 6月26日（水） 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	メシアン／トゥランガリーラ交響曲 公演時間：約80分（休憩なし） 1回券発売中
7月	**指揮: ダン・エッティンガー**（桂冠指揮者） **ピアノ: 阪田知樹*** 第163回 7月24日（水）19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第1002回 7月28日（日）15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第1003回 7月29日（月）19:00 サントリーホール	モーツァルト／ピアノ協奏曲 第20番* ブルックナー／ 交響曲第4番『ロマンティック』 （ノヴァーク版） 〈ブルックナー生誕200年〉 1回券4月発売

9月	**指揮: チョン・ミョンフン**（名誉音楽監督） **マクベス: セバスティアン・カターナ** **マクベス夫人: ヴィットリア・イェオ** **バンクォー: アレックス・エスポージト** **マクダフ: ステファノ・セッコ** **マルコム: 小原啓楼** **侍女:但馬由香** **医者: 伊藤貴之** **マクベスの従者、刺客、伝令: 市川宥一郎** **合唱: 新国立劇場合唱団（合唱指揮:冨平恭平）** 第1005回 9月15日（日） 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第1004回 9月17日（火） 19:00 サントリーホール 第164回 9月19日（木） 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	ヴェルディ／歌劇『マクベス』 オペラ演奏会形式 公演時間：約2時間45分（休憩含む） 1回券４月発売
10月	**指揮: 出口大地** **ヴァイオリン: 服部百音*** 第1006回 10月17日（木） 19:00 サントリーホール 第165回 10月18日（金） 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第1007回 10月20日（日） 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	ハチャトゥリアン／ 『ヴァレンシアの寡婦』組曲より ファジル・サイ／ ヴァイオリン協奏曲『ハーレムの千一夜』* コダーイ／ガランタ舞曲 コダーイ／ ハンガリー民謡『孔雀は飛んだ』による変奏曲 1回券４月発売
11月	**指揮: アンドレア・バッティストーニ** （首席指揮者） 第166回 11月13日（水） 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第1008回 11月17日（日） 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第1009回 11月19日（火） 19:00 サントリーホール	マーラー／交響曲第7番『夜の歌』 公演時間：約80分（休憩なし） 1回券４月発売

問合せ　東京フィルチケットサービス

Tel　03-5353-9522（平日10時～18時・土日祝日休／発売日の土日祝は10時～16時）

URL　www.tpo.or.jp/（24時間受付・座席選択可）

詳細はこちら

午後のコンサート。2024シーズンラインナップ

大人気シリーズ「午後のコンサート。」2024シーズンのラインナップを発表いたしました。オーケストラの名曲と音楽家のとっておきのお話で楽しむ午後のひととき。2024シーズンも引き続き、東京フィルの午後のコンサートをお楽しみください。

4回セット券の新規発売は1月より順次開始いたします（次ページをご参照ください）。

渋谷の午後のコンサート　会場:Bunkamuraオーチャードホール　開演14:00

5月19日（日）
第21回
クラシック・ジュークボックス
指揮とお話:
栗田博文
ピアノ:
壷阪健登

1回券
3月発売

©友澤綾乃　©川口宗道

7月7日（日）
第22回
夏のパリへ
指揮とピアノとお話:
三ツ橋敬子
語り: 調整中

1回券
5月発売

©Earl Ross

9月8日（日）
第23回
心躍らせたあの曲との再会
指揮とお話:
尾高忠明
桂冠指揮者
ヴァイオリン:
竹内鴻史郎

1回券
5月発売

©上野隆文

11月4日（月・祝）
第24回
なんでもOK（オーケー）ストラ!!
指揮とお話:
円光寺雅彦
ピアノ:
清塚信也

1回券
8月発売

©上野隆文　©Yuji Takeuchi

平日の午後のコンサート　会場:東京オペラシティ コンサートホール　開演14:00

託児あり

5月15日（水）
第33回
クラシック・ジュークボックス
指揮とお話:
栗田博文
ピアノ:
壷阪健登

1回券
3月発売

©友澤綾乃　©川口宗道

7月4日（木）
第34回
夏のパリへ
指揮とピアノとお話:
三ツ橋敬子
語り: 調整中

1回券
5月発売

©Earl Ross

9月4日（水）
第35回
心躍らせたあの曲との再会
指揮とお話:
尾高忠明
桂冠指揮者
ヴァイオリン:
竹内鴻史郎

1回券
5月発売

©上野隆文

11月8日（金）
第36回
なんでもOK（オーケー）ストラ!!
指揮とお話:
円光寺雅彦
ピアノ:
清塚信也

1回券
8月発売

©上野隆文　©Yuji Takeuchi

2024シーズン「渋谷」「平日」シリーズは同演目になります。

休日の午後のコンサート　会場:東京オペラシティ コンサートホール　開演14:00

託児あり

4月14日(日)
第100回

響演! 100回記念スペシャル

指揮とお話:
円光寺雅彦
合唱:
新国立劇場合唱団　ほか

©K.Miura

1回券
3月発売

©上野隆文

6月9日(日)
第101回
コバケンの『わが祖国』

指揮とお話:
小林研一郎
ピアノ:
小林愛実

1回券
3月発売

©上野隆文　©Makoto Nakagawa

8月12日(月・祝)
第102回
山の思い出

指揮とお話:
横山 奏
ヴァイオリン:
辻 彩奈
ゲスト:
石丸謙二郎

1回券
5月発売

©平舘平 ©Makoto Kamiya

10月14日(月・祝)
第103回
クラシックの車窓からⅡ

指揮とお話:
角田鋼亮
チェロ:
鳥羽咲音

1回券
8月発売

©Hikaru Hoshi　©Julia Wesely

午後のコンサート。2024シーズンの4回セット券　新規発売スケジュール

最優先※お電話のみ (賛助会員様、定期会員様)	**1/27(土)10:00〜**
優先※お電話のみ (東京フィルフレンズ会員様)	**2/3(土)10:00〜**
WEB優先発売 (どなたでもお求めいただけます)	**2/3(土)10:00〜 2/19(月)23:59**
一般発売	**2/20(火)10:00〜**

イラスト:ハラダチエ

◆渋谷／平日／休日　各シリーズ共通　4回セット券

4回セット券料金	S席	A席	B席	C席
定価	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
東京フィルフレンズ会員 WEB優先発売期間	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560

※やむを得ない事情により、出演者・曲目などが変更になる場合がございます。※公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしかねます。
※未就学児のご入場はお断りしております。東京オペラシティでの公演では託児サービス(要予約・有料)をご利用いただけます。お申し込みの際は【イベント託児・マザーズ®】0120-788-222 (土日祝日を除く10:00-12:00、13:00-17:00)までご連絡下さい。

お問合せ・お申込み　東京フィルチケットサービス
03-5353-9522(平日10時〜18時／土日祝休　発売日の土日祝のみ10時〜16時で営業)
東京フィルWEBチケットサービス　https://www.tpo.or.jp/

Photo Reports　2023年11月･12月の演奏会より

11月･12月は2023シーズン締めくくりの公演が目白押し。定期演奏会は首席指揮者アンドレア･バッティストーニとともに、「午後のコンサート」はマエストロ円光寺雅彦とともに、それぞれ魅力的なソリストを迎えてお届けしました。

第20回 渋谷の午後のコンサート（11/5）
第32回 平日の午後のコンサート（11/6）
〈なんでもOKストラ!!〉

指揮とお話：円光寺雅彦
ピアノ&チェレスタ：清塚信也*
コンサートマスター：依田真宣

グリンカ／歌劇『ルスランとリュドミュラ』序曲
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番より第2楽章*
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番『皇帝』より
　第3楽章*
　【ソリスト･アンコール】サン＝サーンス（清塚信也編）：序奏とロンド･カプリチオーソ
チャイコフスキー／『くるみ割り人形』より
　“金平糖の踊り”*
ラヴェル／ボレロ*
　【オーケストラ･アンコール】ラヴェル／ボレロより

マエストロ円光寺雅彦と清塚信也さんの愉しい掛け合いは今年で4回目。清塚さんは『くるみ割り人形』と「ボレロ」でチェレスタを担当。2024年の「午後コン」にも、このコンビで登場いただきます

第99回 平日の午後のコンサート（12/3）
〈クリスマス in ニューヨーク〉

指揮とお話：円光寺雅彦
ヴァイオリン：廣津留すみれ*
コンサートマスター：三浦章宏

アンダーソン／舞踏会の美女
モンティ／チャールダーシュ*
エルガー／愛のあいさつ*
サラサーテ／ツィゴイネルワイゼン*
　【ソリスト･アンコール】廣津留すみれ編／クリスマス･メドレー
ワルトトイフェル／スケーターズ･ワルツ
チャイコフスキー／バレエ組曲『くるみ割り人形』
　【オーケストラ･アンコール】アンダーソン／そりすべり

ニューヨークのジュリアード音楽院とハーバード大学に学んだヴァイオリニスト廣津留すみれさんとともに、クリスマスにちなんだ楽しい楽曲をお届けしました

11月定期演奏会（11/10, 12, 16）　撮影＝上野隆文

指揮：アンドレア・バッティストーニ / チェロ：佐藤晴真＊
コンサートマスター：三浦章宏

チャイコフスキー／幻想曲『テンペスト』
チャイコフスキー／ロココの主題による変奏曲（原典版）＊
【ソリスト・アンコール】
J.S.バッハ／無伴奏チェロ組曲第1番よりサラバンド（11/10）
J.S.バッハ／無伴奏チェロ組曲第3番よりサラバンド（11/12）
J.S.バッハ／無伴奏チェロ組曲第6番よりサラバンド（11/16）
チャイコフスキー／幻想序曲『ハムレット』
チャイコフスキー／幻想序曲『ロメオとジュリエット』

舞台リハーサルより

首席指揮者アンドレア・バッティストーニとチェリスト佐藤晴真さんの共演でお届けした「ロココ・ヴァリエーション」は原典版で

11月定期の初日はサントリーホールにて。バッティストーニのタクトが冴えわたり、明晰かつドラマティックなチャイコフスキーが奏でられ、シーズンの掉尾を飾りました

Photo Reports　2023年12月の演奏会より

2023年の「第九」特別演奏会は、“左手のマエストロ”出口大地が登場。3公演すべてが完売となり、たくさんのお客様に歓喜の歌をお楽しみいただきました。明けて今年、2024年はウィーンでの『第九』初演200年、日本人による全曲初演から100年という記念すべき年。『第九』にまつわるエピソードを探してみるのも良いかもしれません。

ベートーヴェン『第九』特別演奏会2023（12月22,23,24日）

写真=上野隆文

指揮：出口大地
ソプラノ：光岡暁恵＊　アルト：中島郁子＊　テノール：清水徹太郎＊　バリトン：上江隼人＊
合唱：新国立劇場合唱団（合唱指揮：水戸博之）＊
コンサートマスター：三浦章宏

ベートーヴェン／『献堂式』序曲
ベートーヴェン／交響曲第9番『合唱付』＊

協賛：楽天グループ株式会社（12/23）、楽天カード株式会社（12/24）
協力：Bunkamura（12/24）

マエストロ出口のもと、清新かつ気迫のこもった、堂々たる『第九』が奏でられました

ニューイヤーコンサート2024(1/2,3)

写真＝三浦興一

指揮：三ツ橋敬子　トランペット：児玉隼人＊　司会：朝岡 聡

コンサートマスター：三浦章宏

※1/2公演のソリスト・演目が当初の発表から変更となりました。

J. シュトラウスⅡ／喜歌劇『こうもり』序曲

クラーク／トランペット・ヴォランタリー＊

J.B.アーバン／「ヴェニスの謝肉祭」による変奏曲＊

【ソリスト・アンコール】モリコーネ／ガブリエルのオーボエ

お客様の投票で演奏曲が決まる「福袋プログラム」

1/2公演：シベリウス／交響詩『フィンランディア』
スメタナ／連作交響詩『わが祖国』より"モルダウ"

1/3公演：J.S.バッハ／G線上のアリア
J.ウィリアムズ／『スター・ウォーズ』よりメイン・タイトル

豪華景品が当たる「お年玉抽選会」～ラデツキー行進曲

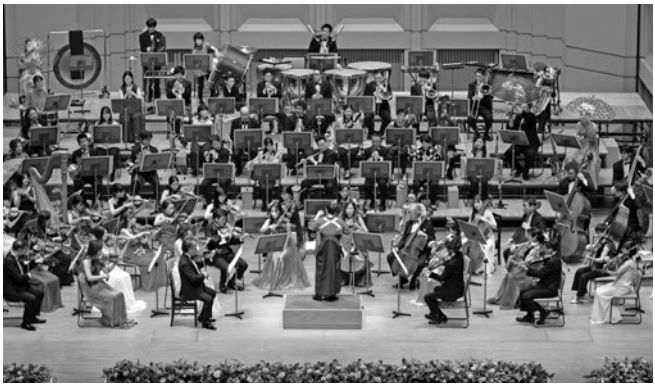
ラヴェル／ボレロ

【オーケストラ・アンコール】J.シュトラウス／ポルカ『雷鳴と稲妻』

主催：Bunkamura / 公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
協力：株式会社セルリアンタワー東急ホテル／株式会社浄土ヶ浜パークホテル
衣装提供：長沼静きもの学院

開場時・休憩中には恒例の獅子舞も登場。厄を払い幸せな一年を祈ります

ソリストは14歳のトランペット奏者、児玉隼人さんが登場。「七五三以来」という紋付袴で颯爽と登場し、マエストロ三ツ橋敬子のサポートのもと、煌めく音色でトランペットの名曲を演奏しました



アンコールはJ.シュトラウスのポルカ『雷鳴と稲妻』。オーケストラメンバーも色とりどりのドレスに身を包み、舞台を華やかに彩りました

定期演奏会·午後のコンサート
～2023シーズンのおもなレビューから～

1月定期演奏会（チョン・ミョンフン指揮）

「第2楽章では静粛ななかから厚みとうねりのある壮麗なブルックナーの音が形成され、ノヴァーク版の輝かしい楽章の頂点に向かう様は賞賛に値する」（音楽の友3月号・戸部亮）／「後半2楽章における濃密で強靭な推進力は圧巻」（モーストリー・クラシック4月号・東条碩夫）／「豊穣と俊敏、宗教性と世俗性という相反する要素を止揚させたブルックナーが出現」（モーストリー・クラシック4月号・小宮正安）

2月定期演奏会（ミハイル・プレトニョフ指揮、ピアノ イム・ユンチャン）

「プレトニョフが指揮する東京フィルは独特の暖色系の音色で良く鳴る。（…）音圧と粘りを増した弦の豊かな響きの上に自発性に富む木管、力強く輝かしい金管のソロがのり、打楽器が明確なアクセントを刻む。ノスタルジックな旋律を歌い上げ、民族色をはっきりと打ちだし、ドラマを盛り上げながらクライマックスの爆発へとごく自然に導いた」（「音楽の友」4月号、池田卓夫）／「ベートーヴェンの《皇帝》ではソリストのイム・ユンチャンが10代とは思えぬ個性的な演奏を聴かせ、音符の一つ一つに新鮮な解釈を導入してただならぬ才能を感じさせた」（モーストリー・クラシック5月号・東条碩夫）

3月定期演奏会（アンドレア・バッティストーニ指揮）

「オーケストラは指揮者と一体感があり、積極性と技巧の高さを示した。（…）簡潔ながら、バッティストーニの明快な音楽性と、彼と東京フィルとの相性のよさを示す好プログラム」（音楽の友5月号・山田治生）

5月定期演奏会（ミハイル・プレトニョフ指揮）

「プレトニョフ指揮による東京フィルの演奏は、情景が目に浮かぶような鮮やかな語り口、研ぎ澄まされた鋭い音、豊かな色彩感という共通する特徴がある。ラフマニノフの管弦楽曲でも、これらの長所が発揮された」（音楽の友8月号・長谷川京介）

6月定期演奏会（尾高忠明指揮、ピアノ亀井聖矢）

「尾高の音楽づくりは丁寧で、細かい表情付けに優れ、作曲家のアイディアを隈なく漏らさず掬い取る」（モーストリー・クラシック9月号・萩谷由喜子）

7月定期演奏会（チョン・ミョンフン指揮、グレゴリー・クンデ、新国立劇場合唱団　他）

「超級の名演！／忘れがたい公演となった「音のみ」の劇的表出」（音楽の友9月号・岸純信）／「壮大なスケールの中でそれぞれの登場人物が心の襞にこまやかに分け入る悲劇を聴かせた（…）刻々と揺れ動く弱った男の心をしなやかな音色を駆使して表現する場面は圧巻」（しんぶん赤旗9月1日付・森岡美穂）／「名誉音楽監督チョン・ミョンフンの暗譜による指揮は、揺るぎない自身と生命力に満ちている。冒頭の嵐の場面では、力むことなくアンサンブルのエネルギーを引き出し、次第にボルテージをあげていく。オーケストラは鋭敏に反応し、新国立劇場合唱団は演技なしに声で緊迫感を高め、最後列からのオテロの登場で、クライマックスを迎える」（日本経済新聞8月10日付・山崎浩太郎）／「一瞬たりとも聴き逃せない密度の濃い音楽劇空間を現出させた。（…）注目すべきは、日本人歌手勢も通常の彼らの演唱とは次元を異にする充実を示したことだ」（モーストリー・クラシック10月号・國土潤一）

8月「平日の午後のコンサート」（指揮とお話 出口大地、ピアノ清水和音）

「ハチャトゥリアン「組曲《仮面舞踏会》」から〈ワルツ〉は、音楽が非常にはげしくて、大きな音で、ヴァイオリンが美しくきれいにひびいていました。3拍子が目立っていました。演奏する人が工夫して、静かにきれいな音楽にしているのがすごいなと思いました」（音楽の友 特別企画「オントモ・キッズ編集者」より、小学生記者によるレビュー）

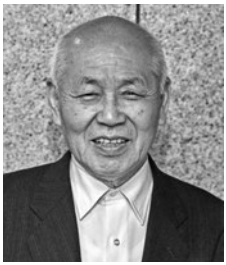
10月定期演奏会（クロエ・デュフレーヌ指揮、ヴァイオリン中野りな）

「サン＝サーンスのヴァイオリン協奏曲第3番は、まだ10代の中野りながソリストを務めたが、堂々たる演奏。技巧がたしかで音が豊かだ」（モーストリー・クラシック1月号・香原斗志）／「（デュフレーヌは）指揮の身振りは激しいけれども、身体の動きはしなやかであり、柔かくてふくらみのある音をオーケストラから引き出す。東京フィルもよく合わせている」（東条碩夫のコンサート日記）

11月定期演奏会（アンドレア・バッティストーニ指揮、チェロ佐藤晴真）

「シェイクスピアと関係の深い3つの管弦楽作品を並べた周到なプログラミングは、文学にも通じた知性派らしい。歌劇場仕込みの巧みな演出力を随所で発揮して、客席を熱狂させた」（速リポ11月11日付・深瀬 満）／「オーケストラは管楽器奏者の素晴らしいソロと弦楽器セクションの集中的でエネルギッシュな演奏により、力強くドラマティックな演奏を披露した。バッティストーニはドラマを見事にテンポよく進め、巨大な悲劇的なクライマックスに向かって盛り上げていった」（Bachtrack11月20日付・Nahoko Gotoh（抄訳））／「バッティストーニは、もともとドラマティックな表現が得意なだけにオペラティックなカンタービレをたっぷり歌うチャイコフスキーは聴き手の感情を高ぶらせる」（音楽現代1月号・宗 巌）

私と東京フィルハーモニー交響楽団（音楽遍歴）



元 霞が関ビル内郵便局 局長
外山 雄三

東京フィルゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第22回は、郵便局長等を歴任し令和3年に瑞宝双光章を受勲され、パートナー会員として長きに亘り東京フィルをご支援くださっている外山雄三様。卒寿を迎えられた現在もコンサート通いを続けておられます。独自に編み出されたというコンサートの楽しみ方について綴っていただきました。

初詣に行き交う街中の一角から「四海波　静かにて　国も治まる　時つ風……」（謡曲　高砂より）と新年を寿ぐ唄声が。気持ち新たに「令和六甲辰年」を迎える事が出来まして誠におめでとうございます。

東京フィルハーモニー交響楽団2024年定期演奏会の開幕を嬉しく存じます。

齢九十となる私ですが、クラシック音楽との出会いは中学生時代にさかのぼります。その頃はラジオから流れる和洋合奏「元禄花見踊り」やJ.S.バッハの「イタリア協奏曲」、学校の音楽の時間で「カルメン前奏曲」を耳にしていました。

当時は何もわからず聞き流していましたが、軽快な音の流れが乱れた心を平常心へと導き、和ませてくれたように思います。その後、夜間高校に通いながら郵便局に就職して間もなく、職場の先輩に誘われて近衛秀麿指揮の演奏会を聴きに日比谷公会堂を訪れ、それをきっかけにNHK放送会館での公開番組などにも通うようになりました。東京フィルとの出会いは昭和28年2月、M.グルリット指揮の『魔笛』です。パパゲーノとパパゲーナによる二重唱のメロ

2023年に結婚60周年を迎え、
東京オペラシティ コンサート
ホールにて記念撮影

ディーが心に残り、またこのとき先輩から「東京フィルのコンサートマスターは夏目漱石さんのご子息」と聞いて由緒ある楽団だと強く印象付けられました。

その後の転勤で演奏会から遠のいた時期もありましたが、定年退職して自由の身となってからは東京フィルの「ハートフルコンサート」には毎年欠かさず通い、今では「午後のコンサート」シリーズや定期演奏会なども家内と一緒に楽しんでいます。笑い話ですが、過去には同姓同名のマエストロと間違われ作曲依頼を申し込まれたこともありました。

「休日・平日の午後のコンサート」ではいつもP席に座り、平土間からは窺うことのできない指揮者の表情や楽団員の一挙手一投足に至るまで観察しながら聴いています。時には（周囲を憚りながら）手拍子・足拍子をとって楽しみ、義太夫節・長唄・河東節をはじめとした純邦楽に見られる合いの手の音色や情景描写との比較に心を寄せるなどクラシック音楽への興味は尽きません。最近は記憶力維持のため、「脳トレ」として演奏会の感想や気にかかったことなど感じたままを継続して書き留めています。

東京フィルの演奏会を通じて音楽と共に生きる喜びを感じ、オーケストラが奏でる音のエッセンスを「心の栄養源」にして今日に至っております。

東京フィルは今年創設113年を迎えられます。事務局の方々の観客第一の接客行動には感服を致して居り、これからの115年、120年、200年と更なる歴史が連なることを願い、今後も「頑張れ東京フィル！！」とエールを送り続けます。

「久しき　春こそ　目でたけれ」

外山雄三（とやま・ゆうぞう）
昭和8年（1933年）東京生まれ。中央大学法学部2部卒業、文京区内の郵便局を皮切りに都内13の郵便局で総務・労務・経理を中心に、局長としてマネージメントも担当し、43年間勤める。現在は「無冠の大夫」で音楽を友として過ごす。

厳寒の候、皆さまにおかれましてはお変わりなくご健勝のことと存じます。
今シーズン開幕は、北欧の2大作曲家の名作をお届けいたします。
ピアノの巨匠でもあるマエストロと
個性豊かなピアニストが紡ぎ出す音楽をぜひお楽しみください。
昨年に引き続き、本年も当楽団を何卒よろしくお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団 理事長　三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役　社長 COO 兼 CFO	十時 裕樹
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛膓 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IHI
代表取締役社長　井手 博

(株)アイエムエス
取締役会長　前野 武史

(医)相澤内科医院
理事長　相澤 研一

アイ・システム(株)
代表取締役会長　松﨑 務

(株)アシックス
取締役会長　尾山 基

(株)インターテクスト
代表取締役　海野 裕

ANAホールディングス(株)
代表取締役社長　芝田 浩二

(株)NHKエンタープライズ
代表取締役社長　有吉 伸人

大塚化学(株)
特別相談役　大塚 雄二郎

(株)オーディオテクニカ
代表取締役社長　松下 和雄

(公財)オリックス宮内財団
代表理事　宮内 義彦

カシオ計算機(株)
代表取締役 社長 CEO 兼 CHRO　増田 裕一

キヤノン(株)
代表取締役会長兼社長 CEO　御手洗 冨士夫

(株)グリーンハウス
代表取締役社長　田沼 千秋

サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長　新浪 剛史

信金中央金庫
理事長　柴田 弘之

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役　遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長　田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長　金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長　菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役社長　小澤 真也

ソニーグループ(株)
代表執行役　社長 COO 兼 CFO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長　髙橋 薫

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO　村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長　澤田 太郎

都築学園グループ
総長　都築 仁子

東急(株)
取締役社長　堀江 正博

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長　長島 誠

東レ(株)
代表取締役社長　大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)
代表取締役社長　添田 秀樹

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長　関口 明

(株)ニチイケアパレス
代表取締役社長　秋山 幸男

(株)ニフコ
取締役会長　山本 利行

日本ライフライン(株)
代表取締役社長　鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役　新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO　北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長　河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO　福留 朗裕

三菱地所(株)
執行役社長　中島 篤

三菱倉庫(株)
相談役　宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問　小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役　田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長　松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長　辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長　長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長　山野 政彦

ユニオンツール(株)
代表取締役会長　片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長　今西 宏明

楽天グループ(株)
代表取締役会長兼社長　三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長　岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長　山本 修司

(医)エレソル　たにぐちファミリークリニック
理事長　谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長　和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役　雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長　加藤 徹

(医)康明会
理事長　遠藤 正樹

(医)だて内科クリニック
理事長　伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員　若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会
代表理事　金子 眞吾

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長　吉田 雅俊

(株)ネスト
代表取締役　太田 潤

富士通(株)
代表取締役社長　時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役　代表執行役社長　三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長　漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年（明治44年）に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいちはやく受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後もさらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いっそうの発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（次ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	ゆうちょ銀行（郵便振替）	三井住友銀行・東京公務部（096）
口座番号	00120-2-30370	普通預金 3003239
口座名義	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団	

※寄附金額は自由に設定いただけます。
※振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。
※領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入し、
　下記送付先へご送付ください。
　寄附申込書の書式は下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。

寄附申込書・賛助会入会申込書はこちらからも取得いただけます。
https://www.tpo.or.jp/support

ご支援・賛助会に関するお問合せ／寄附申込書　送付先

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部　寄附担当
〒163-1408　東京都新宿区西新宿3-20-2　東京オペラシティタワー8階
Fax: 03-5353-9523　　Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel: 03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

東京フィルの賛助会（応援団）に入りませんか？

2024年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立113年を迎えます。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは 1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

さまざまな形で青少年に演奏を届ける活動を続けています

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会（法人／パートナー（個人））会員の種別

オフィシャル・サプライヤー　※

法人会員	年会費1口
賛助会員	50万円
後援会員	30万円
パートナー会員	
ワンハンドレッドクラブ	100万円
フィルハーモニー	50万円
シンフォニー	30万円
コンチェルト	10万円
ラプソディ	5万円
インテルメッツォ	3万円
プレリュード	1万円

※オフィシャル・サプライヤーの詳細はお問い合わせください。
東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。
その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」またはウェブサイト、東京フィル担当（partner@tpo.or.jp）までお尋ねください。
ご入会の後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団　広報渉外部（担当：星野・鹿又（かのまた））
Tel: 03-5353-9521（平日10時～18時）　Eメール: partner@tpo.or.jp

活動のご報告

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演事業）」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022（令和4）年度の「文化芸術による子供育成推進事業」では、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択（2022～2024年度）を受け、2023年度も6月から12月にかけ、小中学校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催いたしました。

小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待･･･留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス（03-5353-9522）までお問合せください。

定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン（2019年7月東京オペラシティ定期）

©上野隆文

“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「“とどけ心に”特別招待シート」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使わせていただきます。

お問合せ・お申込み
東京フィルチケットサービス
電話:03-5353-9522
(10時～18時／土日祝休)

11月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

樋口 順子、山中 純子(他匿名希望10名)　(五十音順・敬称略)

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- **周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい**
- **商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい**
- **式典や学会などでの演奏を企画したい**
- **東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい**
- **新製品、サンプルを会場で販売・配布したい**

日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

どうぞお気軽にご用命ください。

【広告・協賛のお問合せ】　東京フィルハーモニー交響楽団　広報渉外部
Tel: 03-5353-9521(平日10時～18時)　Eメール: partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宣
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirosawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水鳥 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邉 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michiyo Suto

髙平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曽和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ
Cellos

金木 博幸◎
Hiroyuki Kanaki
服部 誠◎
Makoto Hattori
渡邉 辰紀◎
Tatsuki Watanabe
黒川 実咲☆
Misaki Kurokawa
高麗 正史☆
Masashi Korai
石川 剛
Go Ishikawa
大内 麻央
Mao Ouchi
太田 徹
Tetsu Ota
菊池 武英
Takehide Kikuchi
佐々木 良伸
Yoshinobu Sasaki
長谷川 陽子
Yoko Hasegawa
渡邊 文月
Fuzuki Watanabe

コントラバス
Contrabasses

片岡 夢児◎
Yumeji Kataoka
黒木 岩寿◎
Iwahisa Kuroki
遠藤 柊一郎
Shuichiro Endo
小笠原 茅乃
Kayano Ogasawara
岡本 義輝
Yoshiteru Okamoto
小栗 亮太
Ryota Oguri
熊谷 麻弥
Maya Kumagai
菅原 政彦
Masahiko Sugawara
田邊 朋美
Tomomi Tanabe
中村 元優
Motomasa Nakamura

フルート
Flutes

神田 勇哉◎
Yuya Kanda
斉藤 和志◎
Kazushi Saito
吉岡 アカリ◎
Akari Yoshioka
さかはし 矢波
Yanami Sakahashi

オーボエ
Oboes

荒川 文吉◎
Bunkichi Arakawa
加瀬 孝宏◎
Takahiro Kase
佐竹 正史◎
Masashi Satake
岡村 彩香
Ayaka Okamura
杉本 真木
Maki Sugimoto
若林 沙弥香
Sayaka Wakabayashi

クラリネット
Clarinets

アレッサンドロ・ベヴェラリ◎
Alessandro Beverari
万行 千秋◎
Chiaki Mangyo
黒尾 文恵
Fumie Kuroo
鳥潟 さくら
Sakura Torigata
林 直樹
Naoki Hayashi

ファゴット
Bassoons

河野 星◎
Akari Kono
チェ・ヨンジン◎
Young-Jin Choe
廣幡 敦子◎
Atsuko Hirohata
井村 裕美
Hiromi Imura
桔川 由美
Yumi Kikkawa
森 純一
Junichi Mori

ホルン
Horns

齋藤 雄介◎
Yusuke Saito
高橋 臣宜◎
Takanori Takahashi
磯部 保彦
Yasuhiko Isobe
大東 周
Shu Ohigashi
木村 俊介
Shunsuke Kimura
田場 英子
Eiko Taba
塚田 聡
Satoshi Tsukada
豊田 万紀
Maki Toyoda
山内 研自
Kenji Yamanouchi
山本 友宏
Tomohiro Yamamoto

トランペット
Trumpets

川田 修一◎
Shuichi Kawata
野田 亮◎
Ryo Noda
古田 俊博◎
Toshihiro Furuta
杉山 眞彦
Masahiko Sugiyama
前田 寛人
Hirohito Maeda

トロンボーン
Trombones

中西 和泉◎
Izumi Nakanishi
辻 姫子○
Himeko Tsuji
石川 浩
Hiroshi Ishikawa
五箇 正明
Masaaki Goka
藤田 恵輔
Keisuke Fujita
山内 正博
Masahiro Yamauchi

テューバ
Tubas

大塚 哲也
Tetsuya Otsuka
荻野 晋
Shin Ogino

ティンパニ&パーカッション
Timpani & Percussion

岡部 亮登◎
Ryoto Okabe
塩田 拓郎◎
Takuro Shiota
秋田 孝訓
Takanori Akita
木村 達志
Tatsushi Kimura
鷹羽 香緒里
Kaori Takaba
中村 勇輝
Yuki Nakamura
縄田 喜久子
Kikuko Nawata
船迫 優子
Yuko Funasako
古谷 はるみ
Harumi Furuya

ハープ
Harps

梶 彩乃
Ayano Kaji
田島 緑
Midori Tajima

ライブラリアン
Librarian

武田 基樹
Motoki Takeda

ステージマネージャー
Stage Managers

稲岡 宏司
Hiroshi Inaoka
大田 淳志
Atsushi Ota
古谷 寛
Hiroshi Furuya

◎首席奏者
Principal

○副首席奏者
Assistant Principal

☆フォアシュピーラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン･ミョンフン、首席指揮者アンドレア･バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル･プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ･バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『クラシックTV』『いないいないばあっ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regulary performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting Tokyo Phil since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS　https://www.tpo.or.jp/

©上野隆文

東京フィルWEB

役員等・事務局・団友

役員等（理事・監事および評議員）

理事長
三木谷 浩史

副理事長
黒柳 徹子

専務理事
石丸 恭一

常務理事
工藤 真実

理事
浮舟 邦彦
大賀 昭雄
大塚 雄二郎
小山田 隆
篠澤 恭助
田沼 千秋
寺田 琢
遠山 敦子
野本 弘文
韓 昌祐
平井 康文
宮内 義彦

監事
岩崎 守康
山野 政彦

評議員
伊東 信一郎
海老澤 敏
佐治 信忠
鈴木 啓介
瀬谷 博道
日枝 久

事務局

楽団長
石丸 恭一

事務局長
工藤 真実

公演事業部
市川 悠一
岩崎 井織
大久保 里香
大谷 絵梨奈
佐藤 若菜
村尾 真希子

ステージマネージャー
稲岡 宏司
大田 淳志
古谷 寛

ライブラリアン
武田 基樹

広報渉外部
伊藤 唯
鹿又 紀乃
千木 加寿子
二木 憲史
星野 友子
松井 ひさえ
安田 ひとみ

総務・経理
川原 明夫
鈴木 美絵

団友

安藤 栄作
池田 敏美
糸井 正博
今井 彰
井料 和彦
岩崎 龍彦
植木 佳奈
上野 眞行
生方 正好
大兼久 輝宴
大澤 昌生
大和田 皓
岡部 純
小樽 敦子
小山 智子
甲斐沢 俊昭
加藤 明広
加藤 博文
金崎 真由美
川人 洋二
木村 友博
黒川 正三
河野 啓子
近藤 勉
今野 芳雄
齊藤 匠
坂口 和子
嵯峨 正雄
嵯峨 美穂子
桜木 弘子
笹 翠
佐々木 等
佐野 恭一
清水 真佐子
瀬尾 勝保
高岩 紀子
高野 和彦
高村 千代子
竹林 良
竹林 陽子
田中 千枝
田村 武雄
津田 好美
戸坂 恭毅
長池 陽次郎
長岡 慎
長倉 穣司
新田 清枝
新田 伸雄
二宮 純
野仲 啓之助
畑中 和子
玻名城 昌子
福村 忠雄
藤原 勲
古野 淳
細川 克己
細洞 寛
本田 詩子
松澤 久美子
湊 貞男
宮原 真弓
山屋 房子
吉田 啓義
米倉 浩喜
脇屋 俊介

〈発行日〉2024（令和6）年1月23日　〈発行人〉石丸 恭一
〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F　Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523
フランチャイズ・ホール：Bunkamuraオーチャードホール　提携：千葉市　文京区　軽井沢町　長岡市
〈デザイン〉米田デザイン事務所　〈表紙画〉ハラダチエ　〈編集協力〉ひとま舎
〈印　刷〉欧文印刷株式会社
©Tokyo Philharmonic Orchestra ＊無断転載を禁ず（非売品）

～コンサートをお楽しみいただくために～

♪チケットの座席番号をチェック！

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

♪開演時間をチェック！

・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

♪開演前に、お手元のお荷物や電子機器をチェック！

・許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

♪演奏中に気を付けたいことも同時にご確認を！

・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪

こころの時間

Tokyo Philharmonic Orchestra　*Season 2024*